

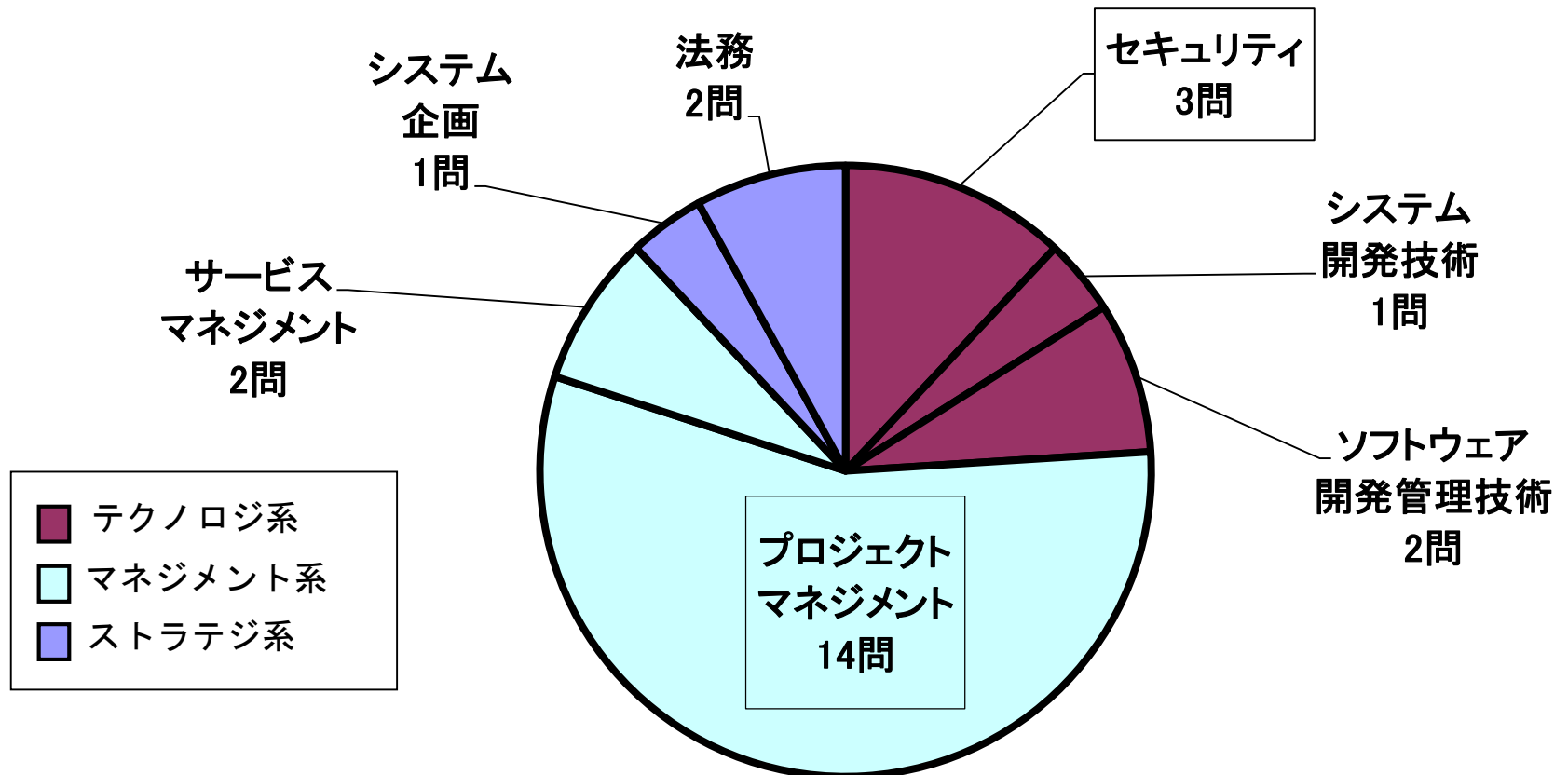
令和4年度 秋期試験 プロジェクトマネージャ(PM) 出題傾向分析

TAC株式会社



PM 午前Ⅱ 分野別出題数

- ・出題比率は前回, 前々回とまったく同じ
- ・「プロジェクトマネジメント」から14問(56%)



PM 午前Ⅱ 特徴と難易度

- ・ PMBOKからの出題無し H22年以降で初めて
 - － JIS Q 21500からは 3問
 - ・ プロジェクトマネージャ試験からの再出題10問
 - － 昨年よりも新作問題が増えた
 - プロジェクトマネジメント分野 14問中8問が新作
 - － 出題年度 2回前(6問)～6回前
 - ・ 計算問題4問がすべて新作問題→時間的難易度:高
 - － 図や条件の把握と計算が必要
- ⇒ 時間的にも内容的にも難易度:高

PM 午前Ⅱ 新テーマとセキュリティのテーマ

- ・ **プロジェクトマネジメント分野**の新規問題
 - EVMによる評価と対策 残作業効率指数(TCPI)
 - アローダイアグラム法による余裕日数の計算
 - 期待金額価値計算
 - **品質評価指標値**の計算
 - JIS Q 21500から スコープの管理, 資源の管理
 - JIS X 25010から 信頼性の品質副特性:回復性
- ・ **その他の分野の新テーマ**
 - **アジャイルソフトウェア開発宣言**, 投資利益率計算, **SDGs**
- ・ **セキュリティ分野**のテーマ PMとAPから1問ずつ
 - CRL (APでR2秋出題)
 - シングルサインオンの実装方式 (R2秋問23)
 - **レッドチームの役割 新作**

PM 午後 I 特徴と難易度

- ・ 午後 I 全体
 - 3問ともプロジェクトの上流工程の問題
開発の進め方の検討, プロジェクト計画, チームビルディング
 - DevOps, 自律的チーム・自立的マネジメント
 - 事例: 最新の動向 顧客体験価値(UX)の改善
AIによるチャットボット導入, メタバースショッピング,
DX推進としてのトレーディングカードの電子化
 - アジャイル型開発が前提のプロジェクト
 - 問題文のボリュームにあまり差はない(4~5ページ)
 - 解答数もすべて同じ 問1, 問2, 問3: 8
- 難易度: 問2: やや易しめ, 問1, 問3: やや高め
全体的としてみると標準的

PM 午後 I 各問題の特徴と難易度(1)

- ・ 問1 SaaSを利用して短期間にシステムを導入する
 - AIを活用したチャットボットの導入
 - ・ UX改善によるビジネス拡大を狙う
 - 機能拡張の基準: 機能がUX改善に合致しているか
 - 確認ポイント, 追加収集した要求, ノウハウの活用
の設問がやや解答ポイントを絞りにくい

アジャイル

やや高
- ・ 問2 ECサイト刷新プロジェクトにおけるプロジェクト計画
 - メタバースショッピング SoE型のシステム開発
 - 開発課と運用課で食い違い ⇒ DevOpsの実現
 - 仮想店舗で実現しようとしているUX, 店舗スタッフメンバに期待するスキル, 自動化ツールの導入効果
 - 3問中, 一番解答ポイントを見つけやすい

アジャイル

やや易

PM 午後 I 各問題の特徴と難易度(2)

- ・ 問3 プロジェクトにおけるチームビルディング
 - DX推進として行うトレーディングカードの電子化
 - ・ 自律的チーム, 自律的なマネジメントについて問われる
 - ・ 資源マネジメント R2年「プロジェクトチームの開発」
 - CDOに伝えてもらうメッセージをCDOが直接伝える理由と共に答える設問, 必要に応じて予算も期限も柔軟に見直す理由設問は, 解答をまとめにくい

やや高

PM 午後Ⅱ 特徴と難易度

- ・ 2問とも事例に制限のある問題
- ・ 新しく試験対象者に加わったマネジメント業務の一部を分担している受験者には難しい
- ・ [設問ウ]から「今後の改善点」がなくなり、それぞれの論点が求められる。
- ・ [設問ア]の論点が多い
 - － 問1, 問2ともに3つの論点
 - ・ 「特徴」ではなく「プロジェクトの概要」
 - ・ 論点を漏らさず, 800字に収まるよう, 注意が必要

難易度: 高い

PM 午後Ⅱ 各問題の特徴と難易度

- ・ 問1 事業環境の変化への対応
 - － 実行中に事業環境の変化により要求された計画変更への対応
「機会を生かす対応策」「脅威を抑える対応策」
「事業環境の変化への対応の評価」
 - － 実施状況の評価だけでなく、事業環境の変化への対応として評価が求められた点は注目点
- ・ 問2 ステークホルダとのコミュニケーション
 - － 設問ウでプロジェクトの実行段階の論点
「目標達成を妨げられるような“認識の不一致”と原因」
「解消するためのコミュニケーション」
 - － 設問イとウで求められた「積極的に行ったコミュニケーション」のヒントは問題文にない

高い

高い

PM 今後の対策

午前Ⅱ

- 重点分野「プロジェクトマネジメント」と「開発技術」を中心に学習することが効果的
 - ・ 規格類(JIS Q 21500)は必ずチェック
 - ・ PMBOK第7版:モデル・方法・作成物に重点をおく
- 過去問題演習で重要テーマや主要論点を把握
 - ・ 2回前(令和3年秋)を中心に7回(平成28年春)前まで
 - ・ 丸暗記ではなく要点の理解を
- 「セキュリティ」は重点分野だが**技術レベルは3**
 - ・ PMと応用情報(AP)の過去問題で学習を

PM 今後の対策

・ 午後 I

対象者像は広がったが、学習方法は変わらない

- プロジェクトマネジメント学習後の過去問演習
問題文で説明されているプロジェクトの特徴や目標を踏まえ、その状況でのPMとしてふさわしい対応
- 主要テーマについて過去問題演習を繰り返し、基本的な考えやノウハウを吸収
- プロジェクトの上流工程の出題が増加
変化を前提とするプロジェクト
アジャイル開発 基本的事項の学習が必要
⇒ アジャイルの学習 + R2年以降の過去問演習

PM 今後の対策

午後Ⅱ

- プロジェクト事例を事前に用意する
 - ・ プロジェクトの概要(特徴), マネジメントの基本的な流れ, 発生した問題点, 対応策など
 - ・ 直近10回の試験で出題された回数の多い順
 - 1統合, 2リスク, 3 資源, 品質, ステークホルダ, スケジュール
- 設問ウから「今後の改善点」がなくなった
 - ・ 今までよりも設問ウに時間がかかる
 - ・ 論述設計時間の短縮化, 手書きへの慣れ ⇒ 論述演習
- 用意した事例を論点に応じてカスタマイズする練習
 - ・ マネジメント分野ごとの基本的な流れを理解
 - ・ マネジメント分野ごとの手法やキーワードを整理
- 設問要求に合っているかを必ずチェック